

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年10月31日現在

## 今月の重点活動

### ■いちご パッキングセンター運営検討会実施

J Aぎふは、10月6日、J Aぎふ黒野流通センターにおいて、パッキングセンターの運営検討会を開催した。農業技術革新工学研究センターから講師を招き、J A関係者と農業普及課が出席した。

検討会では、施設の拡大に伴い、運営の効率化を図ることを目的に、昨年の作業風景のビデオを参考にしながら、主に現状の課題の洗い出しを行った。選別作業での無駄な動きが多い点、空間を効率的に活用できていない点、パート個々の出来高が把握できていない点などが課題として指摘された。

運営検討会は、今後も随時実施する計画であり、農業普及課も運営改善に向けて支援を行っていく予定である。  
(園芸産地支援第一係・三和浩一)



【運営検討会の様子】

## 多様な担い手づくり

### ■えだまめ 魅力再発見食育推進事業成果発表会開催

10月6日、岐阜市立女子短期大学において、えだまめ農業体験の報告会が開催され、岐阜市立女子短期大学ピーチクラブ(大学生協学生委員会)の学生20名と、農業体験に協力したJ Aぎふえだまめ部会の生産者など関係者8名が出席した。

報告会では、えだまめの定植作業や収穫体験のスタッフを務めた学生から、気づいたことや学んだことについて報告があり、「この体験に参加したことで、視野が広がった」「朝早かったこともあるが、大きな達成感、やりがいがあった」「他の学生に、自分たちが体験したことを伝えることや、食べ方の提案をするなど、岐阜えだまめをPRする力になりたいと思った」などの感想が聞かれた。

農業普及課では、今後とも岐阜えだまめに対する理解を深めるため、食農教育などの活動を支援する予定である。  
(園芸産地支援第一係・川部 知)



【報告会の様子】

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 ハツシモ全量基肥肥料の現地検討会開催

10月11日、当農業普及課、県農業技術センター、農業経営課、農産園芸課、J A全農岐阜、肥料メーカーが参集し、岐阜地域のハツシモ全量基肥肥料実証ほの現地検討会を開催し、岐阜市、本巣市及び羽島市の3ヵ所を巡回した。

慣行肥料と改良型肥料の比較展示ほにおいて、各地域の担当普及員から生育状況や生育調査結果について説明し、各ほ場の生育状況を確認した。調査結果とほ場状況から、改良型肥料の生育に問題が無いことを関係者で共通認識することができた。

今後は、農業普及課や農業技術センター実証ほの収量・品質調査結果を踏まえて、改良型肥料の評価を行い、ハツシモ全量基肥肥料への切り替えに向けて検討する予定である。

(地域支援第一係・小島康平)



【現地検討会の様子】

### ■いちご 厳寒期に向けた研修会開催

10月11日、J Aぎふ黒野流通センターにおいて、J Aぎふと農業普及課が連携して、岐阜地域のいちご生産者を対象とした技術研修会を開催した。

厳寒期に向けて必要な栽培管理をテーマとして、農業普及課から今年実施した花芽検鏡の結果と傾向などについて情報提供した後、東京大学放射線環境工学研究室の准教授から「植物のアミノ酸吸収につ



【技術研修会の様子】

いて」講演をいただいた。参加した40名の生産者は、寡日照条件下では、アミノ酸は葉面散布等により植物体にあまりダメージを与えることなく吸収されることなどについて、高い関心を持ち多くの質問が出された。

農業普及課では、今後もいちごの安定生産に向けた技術支援を行う予定である  
(園芸産地支援第一係・三和浩一、松浦香絵、西部真太郎)

### ■ブロッコリー 出荷開始

J A ぎふブロッコリー生産連絡協議会では、10月17日から出荷が始まった。土地利用型経営体のブロッコリー生産者でも、稲刈りが始まる前の8月定植作型に取り組んだため、前年より半月程度早い出荷開始となった。

これら生産者は、畝立てや定植など機械作業は経営体が自ら行い、収穫などの手作業は地元の人を雇用して行っている。農業普及課では、収穫や出荷調製方法・選別について指導するとともに、年末～年明け出荷となる作型管理に向けた研修会を各地域で実施し、2月下旬までの平準出荷を目指している。

(地域支援第一係・稲葉千佳)

### ■桑の木豆 出荷開始

山県市美山地区の桑の木豆生産クラブでは、会員25名が飛騨美濃伝統野菜に認証されている「桑の木豆」を栽培している。

今年は、例年に比べ収穫初めが1週間程度遅れたが、10月に入って莢が色づき出荷が本格化し、昨年以上の多収が期待されている。

農業普及課では、植え付け前、収穫前の講習会、巡回指導を通して、高品質出荷へ向けた支援を行っている。

(地域支援第三係・宮木英有)



【収穫作業の様子】

### ■柿 早秋・太秋・早生富有柿出荷開始、富有柿出荷目揃会開催

10月に入り、早生～中生品種(早秋・太秋・早生富有)の収穫・出荷が各産地で始まり、出荷目揃会や市場との情報交換会など、各産地の活動もいよいよ本格化している。本年の早生～中生品種は、9月の気温が順調に低下したため、果実の着色、肥大とも順調に進み、スタートはほぼ平年並、10月以降の長雨でやや汚損果は見られるものの、家庭選果・選果場における選果・選別の徹底により、高品質な柿が出荷されている。

中でも、岐阜市では、早秋・太秋の機械選果を本年度から開始し、厳しい選果体制による、より高品質な出荷、家庭での箱詰め作業の省力による出荷量の増大に向け、積極的に取り組んでいる。

10月下旬には、主力品種である富有柿の出荷目揃会が各地区で開催され、農業普及課は収穫作業や栽培管理の注意点等の情報提供を行い、高品質果実の出荷に向けた支援を行っている。

(園芸産地支援第二係・鷺見彩子、西垣 孝)



【早秋機械選果の打合せ】

## 住みよい農村づくり

### ■水稲 稲刈り体験活動支援

10月12日と25日、羽島市内の小学校2校において、5年生の稲刈り体験活動が行われた。今年6月にそれぞれの児童が田植えを行った水田では、立派な稲が実っており、指導農家のほか、J A ぎふ、羽島市の担当者も参加した。

農業普及課では、鎌による稲刈り方法の説明や、児童の稲刈り補助を行った。最初は戸惑いながら稲刈りをしていた児童も、慣れてくると自分の場所以外にも進んで刈っていった。

今後も、関係者とともに食農教育の一環として、田植えや稲刈り等稲作体験活動を支援していく。(地域支援第二係・今井啓司)



【手刈り作業の様子】